

# 電話相談 生活-ホットライン

95歳・男性

困った時、相談できるところができてよかった。タクシーで来たかいがあった。



相談に応じる相談員（12月8日）

12月8・9日

8人のうち5人が  
生活保護の相談

50年間音信不通の父…市から扶養届の通知

統合失調症の息子の将来が心配

十一月二十九日に設立した「反・貧困ネットワークとやま」は、電話相談「生活-ホットライン」を十二月八日（日）九日（月）に開設しました。相談員・事務局十人に対応し、八人から電話と訪問で相談がありました。

件数は8件と多くなかったものの相談内容は、いずれも深刻で、生活保護関係が5件、6割を占めました。

NHK、北日本新聞など4社が事前報道・お知らせ

## 相談内容から…

◆59才・女性 50年前に失踪し音信不通になっていいる実父が生活保護を申請。市役所から「扶養届を提出せよ」との通知が来た。私は普通の生活をしているが、私たちを捨てた父に「今さら…」の気持ち。それでも援助しなければならぬのか。

◆60代・女性 統合失調症の息子（40歳）と二人暮らし。年金は月十万円。息子の将来が心配で貯金300万円、生命保険にも加入。障害年金は申請中だが、今の生活はとても苦しい。生活保護は難しいのか。（通算4回にわたって電話）

◆60代・女性 市営住宅で1人暮らしだったが、出産直後に離婚し帰ってきて3人に。元夫は責任を取らない。パート収入は十万円未満で生活が苦しい。娘は、近い将来働くと言っており、自動車は手放したくない。生活保護は難しいのか。

## 不服審査請求の4人 国へ再審査請求

生活保護費引下げに抗議して、不服審査請求に県は却下しました。請求した4人は、厚生労働省に再審査請求をすることに…。

◆95才・男性

タクシー（往復5千円）を使ってで相談に来られた。

軽費老人ホームに入っている。1時間に1回トイレに行かねばならないが、共同トイレでつらい。2年前からケアハウス3カ所に入所を申し込んでいるが返答がない。なぜか。どこか、私が入れる施設はないか。

●95歳なのに、受け答えがしっかりされており感心させられた。約1時間、相談員全員で対応した。高齢だが介護度が低く、収入は多くない。行き場が難しいケース。結論はでなかったが「困った時は連絡して」と、事務局の住所と電話番号のメモを渡した。「困った時の相談先ができた。タクシーで来て良かった」と喜んで帰られた。



反-貧困ネットとやま メールニュース

No.3 2013. 12/13 発行； ネット事務局 E-mail ; info@fureai. tv